

平成28年度 事業実施報告書

(事業報告書の順に記載)

情報部会

生物多様性保全部会

里山保全部会

再生可能エネルギー部会

その他の活動

学習センター事業部



指定管理者として運営する「緑に囲まれた宇都宮市環境学習センター」

情報部会

1) ホームページの運用 <http://kankyokoudouforum.jimdo.com/>



ホットな情報がアップされたホームページ

26年度末にホームページを全面改訂し、よりタイムリーに情報発信できる仕組みになりました。

28年度もフォーラムの活動を積極的にアップし、会員の皆さまへの情報提供につとめました。(情報アップ回数40回)

引き続き身近な情報発信に努め、会員の情報共有を進めてまいります。

2) 会報誌 (Eco together) の発行



年間4回、6・9・12・3月に49～52号を計画どおり発行しました。

部会活動を中心に写真を多用した親しみやすい構成に心がけました。また、新しい企画「フォーラム会員のリレートーク」をスタートし、毎回会員が登場してそれぞれの環境への想いを語るもので、なかなか読みごたえのある記事です。

今後も、親しまれ機能する会報を目指し、改善を進めていきます。

3) 環境イベントへの参画

① もったいないフェア2016 9月25日(日)

宇都宮城址公園(本丸町) 10:00~15:00
来場者総数3,200人(ブ-体験者数297人)
スタッフ6人(フォーラム理事・部会長他)

昨年は雨模様でしたが、今年は朝から晴れてイベント日和となり、多くの来場者を迎えることができました。

今年も自然に親しむ体験教室として「どんぐり工作」を行いました。今年は昨年の反省をふまえ、工作を4種類に限定するなど工夫をしスムーズな運営につとめました。それでも体験者参加者が途切れることなくスタッフも昼食がとれない程でした。



フォーラム活動をパネル展示で紹介

- ・里山保全部会、再生可能エネルギー部会の活動紹介
- ・体験型展示:「どんぐり工作」
- ・環境学習センター活動紹介、チラシ配布 等

情報部会（つづき）

② エコテック&ライフとちぎ2016

12月3日（土）～4日（日） 10:00～16:00/15:00

マロニエプラザ（元今泉）

来場者総数 4,015人

（フォーラムブース体験者数226人）

県内最大のエコの祭典とも言われるこのイベントは「ひろがれエコ行動の輪」をテーマに、多彩な内容で開催されました。フォーラムの紹介、環境学習センターの紹介、そして体験教室として「牛乳パックでブーメラン」と「どんぐり工作・笛づくり」などを行い、大きな賑わいがありました。



難しいマテバシの笛づくりに挑戦

③ 環境学習センター チャレンジもったいない2016

8月20日（土） 10:00～15:00

宇都宮市環境学習センター（茂原町）

来場者総数 434人

（フォーラムブース体験者数22人）

フォーラムが運営する環境学習センターで開催された「チャレンジもったいない」に、再生可能エネルギー部会がブース出展しました。

「太陽の熱でカステラを温めよう」をテーマに、太陽熱のパワーをミニ講義で勉強、ソーラークッカーづくり、実験を行いました。



ソーラークッカーの工作風景

④ 環境学習センターエコまつり2017

3月4日（土）～5日（日） 10:00～16:00

宇都宮市環境学習センター（茂原町）

来場者総数 2,631人

（フォーラムブース体験者数（室内）61人/（屋外）57人）

フォーラムが運営する環境学習センターの最大イベント「エコまつり2017」が開催され、再生可能エネルギー部会がブース出展しました。

今回は「発電を学ぶ」をテーマに、再生可能エネルギーを電気に変える仕組みを勉強しました。室内では、ミニ講義のあと、自分のうちで使用している電気を人間が発電したら何人必要かを計算し宿題ノートとして仕上げます。屋外では自転車発電を体験しました。「体験教室」が特に良かったとの反応がありました。



熱心に講義を聴く参加者



屋外では自転車ですぐにどれくらい発電できるかを体験

生物多様性保全部会

昨年度、新しく立ち上がった部会です。生物多様性の維持を可能にする環境づくりのため、行動することを中心に進めています。

① 5月～7月に外来種除去作業を実施

環境学習センター周辺には希少な植物が生息しており、外来種から守るため、事務局中心にセイタカアワダチソウ・ハルジオン・ヒメジョオンの除去作業を行いました



駆除した外来種は、落ち葉だめにつみあげ、カブトムシの寝床兼エサになります

② 11月ふくろうの巣箱をかける

環境学習センター主催の生物多様性連続講演会「フクロウと友達になろう」が開催され、その流れで環境学習センターの林の中に、子どもたちとふくろうの巣箱をかけました。生物多様性部会も実践活動の一環として支援をしました。まだ、ふくろうは来てくれませんが、すみついてくれれば生物多様性の中がひろがります。



メッセージ入りの巣箱を設置しました

参加者合計 約20人



里山保全部会

① 里山環境の保全

本プロジェクトで実施すること

1. 雑木林の清掃（ごみ等の除去）
2. 雑木林の笹や倒木の整理
3. 雑木林の下草刈りと落ち葉さらい

本プロジェクトにより得られるもの

1. きれいになってゆく雑木林の景観
2. 枯れ木の中や落ち葉の下に棲む虫の観察
3. カブトムシやクワガタの発生（1年後）
4. ~~きのこの発生やシイタケの栽培（将来）~~
5. 春植物の復活（将来）
6. 望ましい姿で存在する雑木林の拡大



<継続活動中 毎月第3日曜日 9:00~12:00頃>
 今年度は一般からの参加者が増え、参加人数が倍増です。
 実績を別添資料に示す。（延べ参加人数 96人）

② 環境学習・環境教育の場の提供

②-1 環境学習センター支援事業

<プログラム内容>

「自然観察とフィールドビンゴ」

5月7日（土）9:00~12:00

みずほの里山保全 スタッフ3人 参加者47人（親子）

「丸太切りと笹刈り」

6月19日（日）9:00~12:00

みずほの里山保全 スタッフ4人 参加者40人（親子）

「落ち葉さらいと焼きいも」

12月18日（日）9:00~12:00

みずほの里山保全 スタッフ4人 参加者28人（親子）

「バームクーヘンをつくろう」

2月4日（土）9:00~12:00

みずほの里山保全周辺 スタッフ4人 参加者22人（親子）

「落ち葉さらいと焼きいも」

2月19日（日）9:00~12:00

みずほの里山保全 スタッフ3人 参加者22人（親子）

②-2 瑞穂台小学校体験学習を支援（地域支援活動）

11月4日（金）と8日（火）9:00~11:00

みずほの里山保全地周辺 スタッフ2人 参加者120人（1年生）

昨年同様、地元小学校の校外学習「里山体験」コースを企画し環境学習センターとともに児童を指導しました。里山の役割りなどを話すとともに、動植物の観察、どんぐり工作や丸太切りを体験しました。地域貢献活動の一つで、今後も大切にしていきたいと思ひます。

②-3 もったいないフェアでどんぐり工作を実施

9月25日（日）「もったいないフェア」にフォーラムブースを出展「どんぐり工作」を実施し、大人気を博しました。

宇都宮城址公園 スタッフ4人 参加者297人（親子）



落ち葉の山を踏み固める



里山の成り立ちと役割りを伝える



大人気のどんぐり工作

参加者合計 約710人

再生可能エネルギー部会

部会活動活発に

栃木県における「再生可能エネルギー」に注目し、その確実な進展に向けて市民とともに学び・発信していきこうと、平成24年度部会が設立されました。平成28年11月には脱炭素社会へ向かうCOP21パリ協定が発効し、再生可能エネルギーの重要性が増してきています。

28年度も、精力的に勉強会を実施するとともに、環境学習センターで開催された「チャレンジもったいない」や「エコまつり」でブースを出展し部員が市民に積極的に情報発信を行いました。

また、環境学習センター主催の再生可能エネルギー施設見学会の企画運営を行うなど幅広く活動を進めていることも評価され、平成28年12月「とちぎのエコキーパーを探せ」で審査員特別賞を受賞することができました。さらに今年度も新会員が2名入会するなど活動が強化されています。

① 月例勉強会＋外部研修会

毎月1回（原則第3土曜日）、環境学習センターで実施し講師を交替でつとめ、うち2回は講師を招き研鑽を積んでいます。今年度は、「水素」に加え、「太陽熱」も研究テーマに追加し勉強会だけでなく下記見学など外部へも積極的に出向き情報の収集につとめてました。

- 5月 「宇都宮市温暖化対策計画」勉強会@宇都宮市役所
- 6月 福島「再生可能エネルギー研究所」を見学
- 12月 東京ビックサイト「エコプロダクツ」を調査見学

（延べ参加人数 160人）



講師を招いて「地中熱」を勉強



宇都宮市職員と勉強会



福島再生可能エネルギー研究所を見学



「審査員特別賞」を受賞

② 環境学習センター主催の「チャレンジもったいない2016」と「エコまつり2017」にブース出展

③ 環境学習センター支援事業

バスで行く再エネ施設見学会を、例年どおり事前調査・調整から当日運営まで幅広く担当しました。今回のテーマは「地中熱利用の先進施設見学会」で、参加者は大きな驚きと発見がありました。

10月19日（水）9：00～16：30 スタッフ4人 参加人数39人



栃木県農業大学校では、
地中熱を活用し本館と園芸温室の空調を実現



矢板エコプレミアムセンターでは
地中熱の講義と地中熱利用の冷暖房設備を見学

参加者合計 約340人

その他の活動

① 春の野鳥観察会 5月14日(土)
鬼怒川河川敷(上桑島町)緑地運動公園周辺 9:00~11:00
スタッフ6人 参加者30人

② 冬の野鳥観察会 12月17日(土)
栃木県中央公園(睦町) 9:00~11:00
スタッフ10人 参加者50人

日本野鳥の会栃木と共催の野鳥観察会が開催されました。街なかの中央公園という地の利の良さと天候に恵まれ、多くの参加者をいただきました。3班に分かれて晴れ渡った冬の公園で元気の鳥たちを探しました。20種類の野鳥を観察することができ、小さくかわいいメジロが集団で餌をついばむ光景が強く印象に残りました。



メジロの集団を発見!

③ プチ農業体験プロジェクト(地域活動支援事業)

地元さつきのプロジェクトチームとの共催で、農家の畑をお借りしておいしいお米をつくりました。レンゲまつり、田植え・稲刈り・収穫祭と一年を通じて親子で自然に親しむ楽しい講座になりました。今年で5年目、一つの区切りとして来年度からはリニューアルの予定です。この間、親子を中心に延べ1,000人を超える参加をいただき大きな成果をあげることができました。

5月 1日(日) レンゲ祭り(摘み草、レンゲ遊び、ゲーム、摘草がゆなど) 親子76人
5月15日(日) 田植え 親子60人
9月11日(日) 稲刈り・天日干し(カエル調査も実施) 親子48人
10月10日(月・祝日) 収穫祭(脱穀体験、新米食べ比べ、芋ほり、焼きいも) 親子47人

延べスタッフ40人 延べ参加者231人(親子)



田んぼの肥料になるレンゲを摘んで



泥だらけで田植えを・・・



カマをつかって稲刈り体験



一年の頑張りの成果をみんなで分かち合いました

その他の活動参加者合計 約370人

学習センター事業部

平成28年度の年間利用者は過去最高

28年度の年間利用者数は、講座参加者や一般来館者の増に伴い、過去最高（33,910人）となりました。

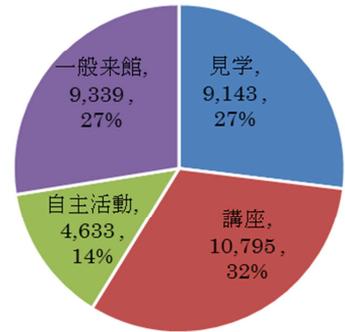
平成30年度には累計利用者50万人超え

平成13年開設以来、16年が経過しましたが、平成28年度までの累計利用者は436,450人で、平成30年度には50万人を超える見込みです。

環境学習講座をフォーラムも支援

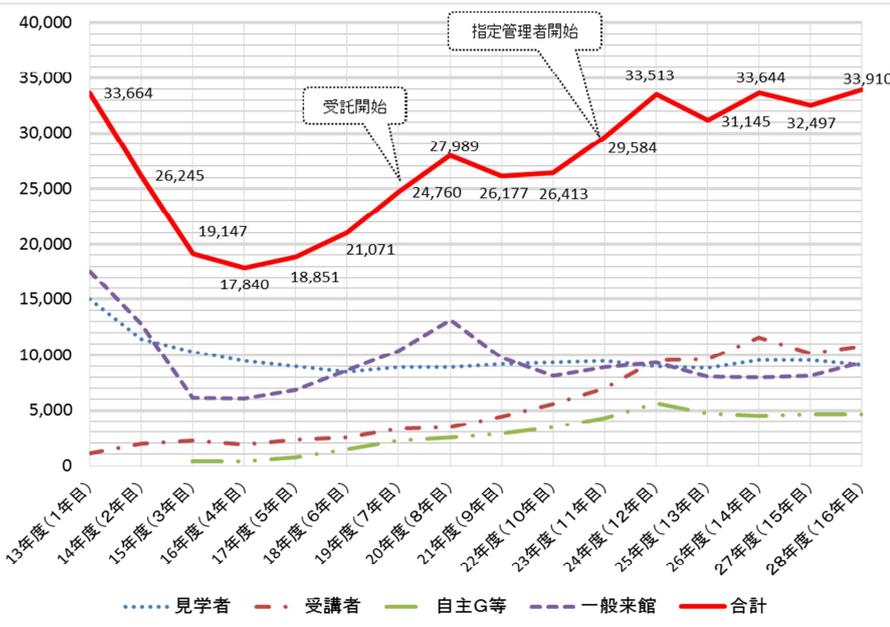
主力事業である講座の利用者は、10,795人で全体の32%を占めていますが、フォーラムでもいくつかの講座の企画運営を支援し、利用者増に寄与しています。

平成28年度利用者分布



年間利用者数33,910人

(人) 年間利用者の推移 (H13~H20環境フェア含む)



「エコまつり2017」は2,631人の方々が来館し、各ブースは大盛況でした。

① 環境学習機会提供機能

□ 「地球温暖化」、「生物多様性」を重要テーマに、様々な講座を開催しました。

◆ 環境大学（前期・後期 各5回シリーズ）

◆ 生物多様性連続講演会（4回開催）

「不思議な鳥フクロウ」、「生物多様性を育む稲作」、「フクロウと友達になろう」、「様々な命・・・人に捧げる家畜たちの一生・・・」



前期「ごみと環境」

廃食用油のリサイクル（吉川油脂）



後期「気象と環境」

人工雷（塩原実験場）



フクロウの巣箱づくり

- ◆再生可能エネルギー施設見学会（10月）
/フォーラムの再生可能エネルギー部会が企画運営/
先進の再エネ（地中熱）に取り組む施設見学会
- ①栃木県農業大学校（宇都宮市）
- ②エコプレミアムセンター（矢板市）



農業大学校地中熱ヒートポンプシステム

□自然と触れ合う体験型講座



キノコを探そう(7, 11月)



渡良瀬遊水地(4, 6, 10月)



足尾植樹(4, 8月)

② 活動支援機能

□自主グループ

講座卒業生で構成される自主グループは、10グループまで増え活動を継続しています。当センター最大のイベント「エコまつり」では、無料体験コーナーを企画運営していただき人気を集めています。今年度は、2日間で889人の方が体験しました。

□こどもエコクラブ（うつのみや自然探検隊）

うつのみや自然探検隊の活性化に努め、自治体登録数（41か所）で比較すると、登録数（サポーター含む）で全国1位（477人）、メンバー数で全国2位（223人）となっています。



うつのみや自然探検隊(レンゲまつり)

③ 交流促進機能

□「チャレンジもったいない2016」を開催（8月）

雨模様の天気でしたが、434人もの親子が参加しました。夏休み終盤の土曜日1日をオープンハウスとして、夏休み宿題にもなるリサイクル工作を中心にした10の体験型ブースを出展しました。

□釜川マイクロ水力発電を実施（12月）

宇都宮工業高校と連携し、廃棄自転車を利用したマイクロ水力発電装置を製作、釜川に設置しました（5年目）。今年は釜川イルミネーションと連携し、多くの方の参加を得て点灯式を行いました。多くの人に釜川の恵みを楽しんでもらうため、ミヤリーのドキドキセンサー（相性診断装置）を大きく使いやすく改良しました。

□「エコまつり2017」を開催（3月）

8回目を迎える「エコまつり」は、開催期間を2日間に短縮しましたが、天気にも恵まれ、2631人の方が参加しました。（前年比89人増）

「来て・見て・体験して・エコを感じて」をコンセプトに18にも及ぶ無料体験コーナーを出展しましたが、見学も含め、延べ2068人の方に体験してもらい成功裏に終わることができました。



ミニ草履づくり



釜川マイクロ水力発電

相性診断装置



デザイン絵柄表彰式

ミニ新幹線

④ 情報提供機能

□ホームページをフル活用

ホームページを活用し、情報発信力を強化しました。また、facebookにより、講座やイベント等の旬な情報をリアルタイムで提供してきました。

⑤ 体質強化機能

□職員の教育研修を実施

教育を毎月実施し、職員のスキルアップに努めるとともに、毎日、朝会、夕会を実施し、情報の共有化等を図ってきました。